

未来を生きる私たちは みやこ町で 何をどう学べばいいの？

みやこ町教育大綱

令和7年3月



1

あるとき、考えました。
私たちには
どんな未来が
待っているのだろうか

みやこ町教育大綱 目次

- P.1 はじめに
- P.2 みやこ町の教育を取り巻く現状・課題
- P.4 教育について考える、住民（大人・子ども）との対話の場
（小学生1回、中学生1回、大人3回のワークショップ）
- P.6 教育大綱 理念・教育のあり方の目標
- P.7 教育大綱 教育の「5つの柱」（方針）
- P.8 教育の柱1 〈対話を生かした学び〉心のゆとりを持って学びあい、成長しあえる対話の場づくり
- P.9 教育の柱2 〈柔軟な学び〉一人ひとりの可能性を花開かせる柔軟な学びづくり
- P.10 教育の柱3 〈選択できる学び〉学びの選択肢が充実したまちづくり
- P.11 教育の柱4 〈地域の中での学び〉地域の大人と体験する学びの機会づくり
- P.12 教育の柱5 〈支えあう学び〉互いに支えあう土壌づくり





友達とおしゃべりしているときに「将来」が話題になりました。これからは変化の大きな社会だと先生や大人は言うけれど、私たちの未来はどんな未来になるのだろうか？考えてみてもなかなか答えが出ません。

はじめに

教育大綱とは、地方公共団体が国の教育振興基本計画を参考にし、首長の責任において教育委員会の協力を得ながら、地方公共団体の目指すべき教育の姿をまとめたものです。みやこ町を含む京都平野では、豊津藩校「育徳館」や漢学塾「水哉園」などで子弟教育に力を入れてきた歴史があり、また現在に至るまで様々な団体が地域教育に力を入れてきました。このような背景から、国の方針だけでなく、地域や時代に合ったみやこ町独自の教育方針を作ることが望ましいと考え、教育大綱を作成することにしました。

教育大綱 作成の方針

対話を 取り入れる

教育大綱を作るにあたり、「子どもの教育はどうあるべきか」という基本的な問いを、世代・職業を超えた多くのまちの人たちと対話を通じて話しあってきました。

本質を明確に

今回の作成にあたっては、様々なことを網羅するのではなく、子どもたちや大人たちが直面する課題を整理し、課題を貫く「本当に大事なこと」を示すことにしました。扇子の骨をひとつにまとめる「要（かなめ）」となる部分、つまり教育の本質を明確にすることが重要であると考えています。

対象者は すべての人

この教育大綱は、子どもを中心にしながら、学校、家庭、地域が協力して子どもを育てることを目指しています。その結果、まち全体がより良い場所になることを期待しています。そのため、この大綱はすべての人を対象としたものです。

最後に、この教育大綱の作成に協力してくださった多くの住民の皆さんや関係者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

みやこ町長 内田 直志

2

私たちが暮らし、学ぶ
大切な場所、みやこ町。
みやこ町で私たちは
何を、どう学ばいいのだろうか

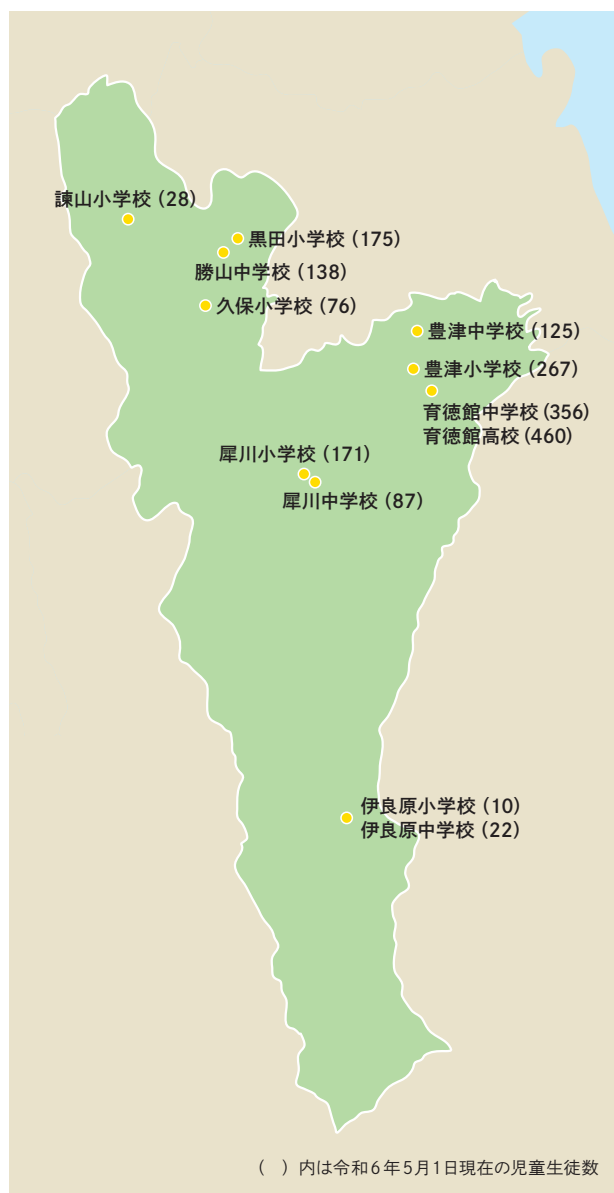
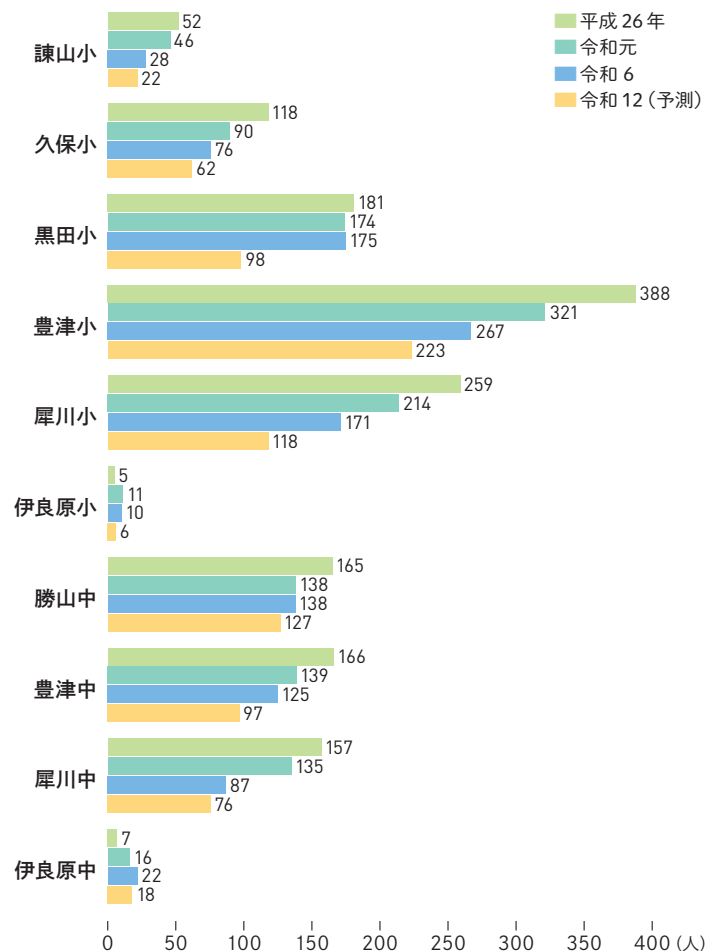


みやこ町の教育を取り巻く現状・課題

課題 1 学びの場を守っていける？

すべての小中学校で子どもの数が減少していく傾向にあります。教育の未来を考える上において学校と公的施設との連動、さらには移住政策や子育て支援との連動など、まち全体の魅力化を進めていく必要があります。

● 学校ごとの児童生徒数の推移



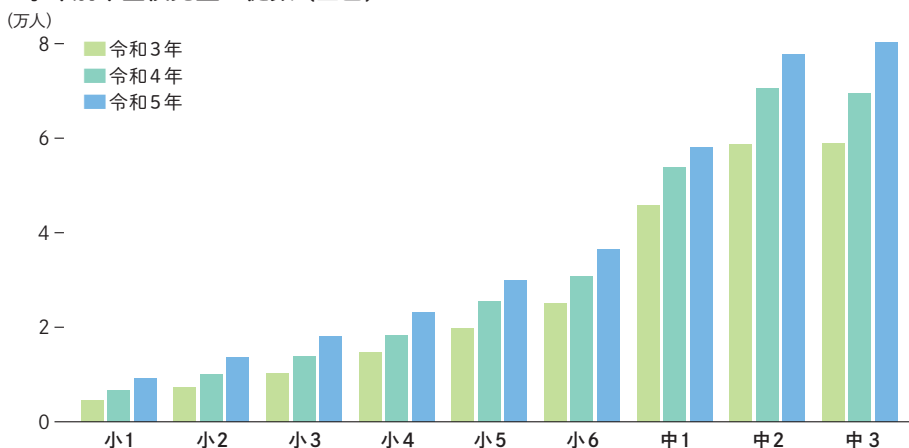


どんな未来になるかはわからないけれど、未来とつながっているのが今です。今を生きる私たちは、みやこ町の学校でどう学んでいけばいいか、それを考えることで、未来の姿が見えてくるかも…そう考えました。

課題 2 どうすればすべての子どもに学びを保障できる？

全国的に不登校の子どもたちは増加傾向にあり、みやこ町も例外ではありません。すべての子どもがどうすれば楽しく学校で過ごせるかを考えると同時に、これからは学校に限らず、学校外での居場所や学びの場を提供することも大切です。

● 学年別不登校児童生徒数（全国）

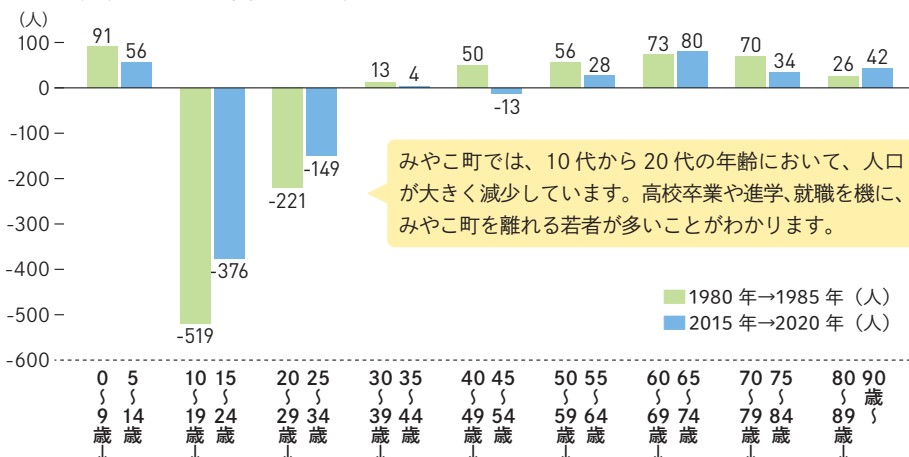


※文部科学省「令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」

課題 3 若者が住み続けたいまちへ、できることは？

高校卒業後、みやこ町に残る人は少ない現状があります。みやこ町に残りたい、みやこ町に戻って暮らしたいと思えるようなふるさとへの愛着を持てる取り組みも必要です。

● 10歳階級別人口5年後の人口移動



みやこ町では、10代から20代の年齢において、人口が大きく減少しています。高校卒業や進学、就職を機に、みやこ町を離れる若者が多いことがわかります。

3

みやこ町の教育について いろんな人の考えに 耳をすませるため、 まちを歩いてみた



教育について考える、住民（大人・子ども）との対話の場

教育大綱にできるだけ多くの人たちの意見を取り入れるため、4、5人のグループに分かれて話しあいを進める対話型ワークショップという方法を用いて、子ども、大人がみやこ町の教育について話しあいを行いました。ワークショップの中では「対話」をする上での参加の心得を大切に、話しあいを進めました。

対話の心得

- ・「私たち」と思う
- ・耳をすませて聴く
- ・否定も断定もしない
- ・答えは一つと思わない
- ・沈黙を歓迎する
- ・アイデアをつなげる
- ・心の変容を許す

1

8月1日 中学生 ワークショップ



みやこ町の教育を考える上で
最も大切だと思うことを中学生が話しあいました。
みやこ町の未来を創る10代の若者たちが、
様々な出会いを望んでいることがわかりました。

- 知らない人と話しあう場所や、いろいろな人たちが
集まって話せる場が必要
- 地域の人と関わる活動、
自分らしさが出せる活動がしたい
- 関わったことのない人と関わることに
とても大事だと思う

9月20日 第1回町民 ワークショップ

まちの人たちが、「みやこ町の教育について思うこと」
「子どもたちにつけてほしい力とは？」を話しあいました。
地域が一体となった教育、多様な体験・経験の必要性、
ICT活用など様々な意見が出されました。

- 町内の規模の異なる学校が、それぞれの特徴を生かした
教育を行い、子どもも学校を超えてそれを選べたらいい
- 学校外の体験活動を学校と共有できたり、
学校で評価してあげられるといい
- 多様な体験の場を学外にも作り、小さな失敗も含む
様々な経験を豊かに得られるように



2



未来はいろんな人と一緒につくっていくもの。だから、いろんな人の話を聴いてみたい。いろんな年齢、職業の人がどんな未来をつくりたいと考えているのか、まちの人たちに聴いてみました。

3

10月29日 第2回町民 ワークショップ



まちの人たちが、「未来にありたい教育の姿」をテーマに話しあいました。年齢も立場も多様な参加者が意見を交換して視野や考え方を広げ、「大切だと思うトピック」を共有していきました。

- 子どもが答えを言わなくてもいい場づくり、大人が評価しない場づくりを
- 子どもの声をちゃんと聴いてくれる人、場所が必要
- オンラインを利用して、住んでいる場所に関わらず、多様な学びを受けられるように

5

11月18日 第3回町民 ワークショップ

まちの人たちが、みやこ町の教育で最も大切にすべきこととは何かを話しあいました。話しあいの中から「ゆとり」「交流」「まちへの愛着」といったキーワードも浮かび上がりました。

- 今まで交流してない人同士が交流できる場所、保護者同士が交流できる場が必要
- あそこに行けば誰かに会えるという日常的な交流の場が欲しい
- 学校の中に子どもが地域の人と交流できる空間を

4

11月11日 小学生 ワークショップ

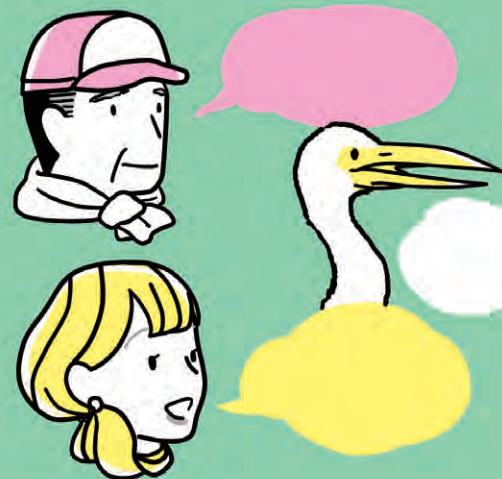
小学生が「10年後どんな人になりたいか」「そのためにみやこ町にどんな場所があるとよいか」を話しあい、自分の考えを深めていきました。小学生からはまちの未来を考えるヒントをもらえました。

- 努力を苦にしない力を身につけたい。そのために、一緒に努力をしてくれる人がいて、たくさん興味を持てる場所があるといい
- 人を支えるやさしさを身につけたい。そのために、誰でも出入りできる施設のような場所があるといい
- 誰に対してもやさしい人になりたい。そのために、いろいろな人と関われる場所があるといい



4

たくさんの人と話すうちに
みやこ町の人たちが
大切にしていることが
わかってきた



教育大綱

教育やまちづくりの土台として、互いに認めあい、学びあい、成長し、協力しあえるあたたかな人間関係が最も大切です。そうした人間関係を生み出す対話の文化を根付かせ、かつてはどんな場所にもあった大人同士のつながりや地域と子どもたちのつながりを新しいかたちで再構築し、学校だけではなく地域全体で子どもを育てていきます。

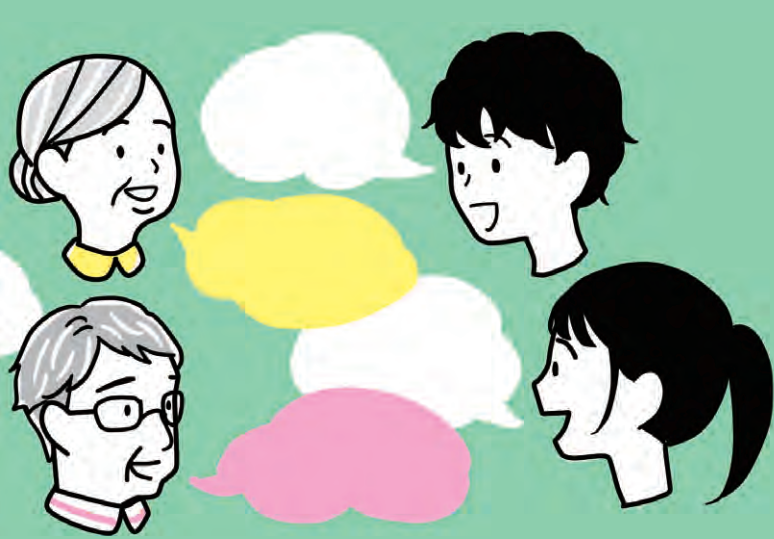
理念

対話によって
「はぐくむ」

教育のあり方の目標

- ・「なぜ？」や「やりたい！」が生まれる良質な体験の機会を増やす
- ・実践や学びを通じて成長する舞台をつくる





いろんな人たちがいろんな考えを話してくれました。一人ひとりの言葉、考えを聴いているうちに、共通している大切な思いがあることに気づきました。それは世代を超えた「対話」を大切にする教育、まちでした。

教育の「5つの柱」(方針)

柔軟な学び



選択できる学び



対話を生かした学び



地域の中での学び



支えあう学び



- 1 〈対話を生かした学び〉 心のゆとりを持って学びあい、成長しあえる対話の場づくり
- 2 〈柔軟な学び〉 一人ひとりの可能性を花開かせる柔軟な学びづくり
- 3 〈選択できる学び〉 学びの選択肢が充実したまちづくり
- 4 〈地域の中での学び〉 地域の大人と体験する学びの機会づくり
- 5 〈支えあう学び〉 互いに支えあう土壌づくり

5

いろんな人と話す中で
自分が心地よく変化し、
自分の考えが広がっている
ことに気がついた



教育の柱

1

対話を生かした学び

心のゆとりを持って学びあい、成長しあえる対話の場づくり

多様な考え方や価値観が増える中で、自分らしさを保ち生きていくことがますます大切になってきています。

そのためには、同じ学年の友達とだけで付きあうのではなく、大人も含めたいろいろな世代と対等に交流することも必要です。答えを強制されず、評価されることを心配せずに、心のゆとりをもって自由に意見を交わす中でこそ、安心して自分らしさを認識していくことができるでしょう。

そこで、ルールに基づいたコミュニケーションの方法としての「対話」に着目し、子どもたちがいろいろな世代の大人たちと対話できる場づくりを進めていきます。またそれは、大人自身の学び直しの場になることも期待しています。





私たちも、まちの人たちと話をする中で、自分の考えが広がっていく心地よさを感じました。そして、まちの人たちからも「いろんな考えを聴けてよかった」と言ってもらうことができました。

教育の柱
2

柔軟な学び

一人ひとりの可能性を花開かせる柔軟な学びづくり

これからの教育の方向性として、子どもたちに「唯一の正解」にたどり着くことだけを求めるのではなく、子どもたちが自ら問いをたて、目標を見つけて、試行錯誤を繰り返し、他者とともに学びあいながら主体的に答えを探っていく柔軟な学びが求められています。

それにはこの趣旨を理解し、子どもたちを継続的に見守り、支えとなるような伴走型のしくみが必要です。すでに実践されている地域の団体等とも連携し、様々な方法でしくみを整えていきます。



5

いろんな良さを持つ
みやこ町だから
できる学びが
あるはず！



教育の柱
3

選択できる学び

学びの選択肢が充実したまちづくり

みやこ町全域において過疎化が進行しています。加えて、合併した3地区が離れているという地理的条件があります。そのため、子どもたちの学びの環境の固定化や選択肢の少なさが課題として挙げられています。

そこで、学校間の交流や、地域や学校ごとの個性を生かした、子どもたちの成長の「舞台づくり」、既存施設の学びのための活用、ICT（情報通信技術）など新しいサービスの積極的活用などを進めることで、社会的、地理的な課題を克服し、学びの選択肢が充実した教育を受けられるまちづくりを目指していきます。





まちには、私たちが気づいていなかったいろいろな良さがあることもわかりました。歴史や自然など、みやこ町ならではの良さを生かしたら、もっと私たちに合った学びを楽しむことができそうだと、思いました。

教育の柱
4

地域の中での学び

地域の大人と体験する学びの機会づくり

「なぜ？」や「やりたい！」が生まれる場所、あるいは学校での座学の内容を実体験できる場所、それはまさに「地域」です。

みやこ町は豊かな自然や歴史文化に恵まれ、また、農林業が盛んであることが特徴です。これらの環境を活かし、人生経験豊かな地域の大人の皆さんと共に、みやこ町ならではの学びの機会をつくっていきます。



5

自分の考え、本音を
話せる場所だから、
安心して暮らせるし、
ずっと大切にしていきたい



教育の柱
5

支えあう学び

互いに支えあう土壌づくり

より楽しく、魅力的な教育を進めるためには学校の先生や保護者など、子どもを取り巻く大人たちが心に余裕を持つことが必要です。

それには大人が一人で問題を抱えず、信頼のある相手にできる限り本音で語れることが必要ではないでしょうか。

そこで、先生、保護者、地域の方々など大人が集い、語りあえる対話の場を設け、互いに支えあえる土壌の醸成に努めます。



自分の心の中にあるものが大切で、
それをいろんな人と話したり、
探究したりしていいんだ！



話をしていると、自分の考えをうまく言葉にできないこともありました。そんなときも、まちの人たちは私たちの言葉を待ってくれました。安心して学び、暮らせるまちなんだなとうれしくなりました。みやこ町で暮らし、学ぶ私たちにとって、このまちでの1日1日が未来につながっていくのだとわかりました。みやこ町に住むいろんな人と話すこと、自分の興味を追究することが今の自分を育て、未来の自分を創っていくのだと思いました。



みやこ町教育大綱

令和7年3月発行